

## 第 8 回外部評価委員会

日時：平成 22 年 4 月 10 日（土）10 時～12 時 10 分

会場：九州大学創立五十周年記念講堂 4 階大会議室

出席者：委員長 清成忠男氏

委員 南原晃氏、岡松壯三郎氏、高田洋征氏、小早川明德氏、有信陸弘氏  
唐池恒二氏、廬 存偉氏

教員 経済学研究院教員

アジェンダ：・平成 21 年度実績報告

・委員会の質問

・委員の評価

・総括

内容：平成 21 年度の九州大学経済学府産業マネジメント専攻の活動に対して、第 8 回外部評価委員会において、外部評価委員よりいただいた主なポイントは以下のとおり。

### <要望・アイデア>

- ・ブロークンでいいから英語ができ、海外で活躍できる人材を育成して欲しい。
- ・日本人として海外に行くときは日本や日本文化を知り教養を身につけて行って欲しい。
- ・スキルだけでなく経営道・スピリッツを教え、萎縮をしないような気概を育てて欲しい。
- ・QBSの校歌を作って肩を組んで歌えば団結が強まり絵になるのではないか。
- ・国立大学で税金が投入されているのでQBSは3倍くらいの応募倍率を目指して欲しい。
- ・成長するアジアから人材を入れて、10倍の速度でMBAを排出する中国と対抗して欲しい。
- ・英語授業の増加、入学金や授業料の減免制度の導入、ダブルディグリーなどを含め、もっとたくさんの留学生を受け入れて留学生比率を上げて欲しい。
- ・地元企業、行政、社会に対するQBSの見せ方を考えて欲しい。
- ・授業に加えることも含め、ソーシャルビジネス、NPO、ボランティア等にも取り組んで欲しい。

### <現状認識と意見>

- ・現状の日本は明らかに構造的な不況で、アジアを始め海外で活躍できる人材が不足している。
- ・日本ではバブル崩壊以降 20 年 GDP が成長していない。先が見えない不安の中で萎縮が始まり、若い人の行動範囲や世界が狭まって、海外への留学生が減っている。
- ・これからは日本でも資格とか学位が重要で、MBAの質保証をきちんとやらなければならない。
- ・日本の理工系学部はすべて縦割りで、専門を持ちながらも全体システム的に発想して問題を解決できる人材が不足している。
- ・留学生問題を解決するにはQBSを出た後の留学生に日本企業に勤めてもらうとか出口戦略が重要。
- ・中小企業の多くは地域で事業を行っているので地域が発展しないと利益が上がらないはずで、民間企業も地域貢献をして始めて利益が上がることになる。

以上